

目標達成までのプロセスにこそ、意味があるもの

メル友からのレポートの中に「使える地図にはいくつかの条件として、(1)見当を付けるための原地の情報がある。(2)地図の製作者と地図を読む人との間の共通な構成信号がある。(3)必要な程度の精密さで写像されている。」の一文があった。

確かに知らないところに行ったり、道に迷った時に地図があれば助かる。

だが、最近のスマホのアプリには、地図を見て確かめる必要なく、スマホでは目的地を打ち込むと順路を線で明示してくれ、それに従って歩けばいいだけで、途中のどこの角をどう曲がればいいのかを前もって考えるおく必要もなさそう。

メル友の言葉を借りれば、途中の経路の「(3)必要な程度の精密さで写像されている」情報は必要ないということかな？

ITの進化で情報末端機さえあれば、指一本を動かすだけで目的のもの、目的のことが分かる（手に入る）ので、プロセスの思考をそう必要としない思考回路世代は、今後益々増えるのだろうなあ。

そういえば、大学の先生方から「今時の学生は、直ぐに『how to（やり方、方法）』を聞いてくる」という話をよく耳にする。

幼い時からゲーム機操作に慣れ親しんできた世代だけに、直ぐに目的、目標のものを手に入れようとする思考回路故に、「直ぐにhow toを聞いてくる」のでしょうかねえ～。

大学は学問する場であり、従来の概念、考え方等を疑ってかかるところから学問は発展するものであり、そうそう直ぐに答えがあるものではないはず。

また、自分の考えや想いを文献等で補完しつつ、相手を説得できないまでも納得させる力量を養う場である。

こうした力は、情報末端機相手に育まれるものでなく、相手との生身でのコミュニケーションや議論の中で育まれるものであり、面倒臭さと忍耐を伴うものである。

大学を就活への単なる一里塚と思うのであれば、自分の就きたい仕事に必要な資格を習得できる専門学校に進学した方が、就活により有利と思うのだが…。

まあ、学生に限らず、人生においても目標達成までのプロセスにこそ意味があるので、直ぐにマニュアルや「how to」を求めて思考停止に陥らないように心がけましょう。